



平成26年9月25日

岡山大学に国内初の成人先天性心疾患センター開設

<概要>

岡山大学病院は8月1日、国内初となる本格的な「成人先天性心疾患センター」を開設しました。成人を迎えた以降も長期にわたる継続診療が必要な先天性心疾患患者のため、循環器内科、小児循環器科、心臓血管外科をはじめとする複数の診療科と、コメディカルスタッフで構成された専門家チームが、密接に連携して診療にあたります。

本センターは、多領域の専門分野が集まる大学病院ならではのメリットを生かし、成人先天性心疾患の国内における代表的な診療・教育施設を目指します。

近年、先天性心疾患に対する外科・内科治療含めた集学的治療の著しい進歩により、複雑先天性心疾患をも含めた90%以上が成人期まで生存するようになりました。日本には2007年時点で推計40万人以上、現在では50万人以上の成人先天性心疾患患者が存在し、今後年間に約1万人の割合で増加していくことが報告されています。その患者数は既に小児患者数を上回っており、先天性心疾患の50%以上は成人の患者になっています。事実、岡山大学循環器内科に入院する患者のうち既に10%を超える患者が心不全や不整脈を合併した先天性心疾患患者であり、その入院数は毎年確実に増加しています。さらに、岡山大学の特徴として心臓手術を受けるため多くの重症先天性心疾患患児が全国より集まっている事が挙げられます。これらの患児が成人期になると、新たな問題を合併し、新たな医療を必要としている現実があります。これまで、先天性心疾患患者は成人になっても小児科医が継続して診てきました。しかしながら成人先天性心疾患は手術による遺残症や不整脈や突然死、重症心不全、消化器疾患などの遠隔期合併症が問題になることが決して少なく、医療機関での定期的な経過観察と治療介入は必須です。このような状況を改善するには循環器内科医、小児循環器医、心臓血管外科医を含めた複数の診療科とコメディカルスタッフで構成された専門家チームによる診療体制を構築することが大学としての使命であり、岡山大学病院に国内初の成人先天性心疾患センターを開設しました。

<お問い合わせ先>

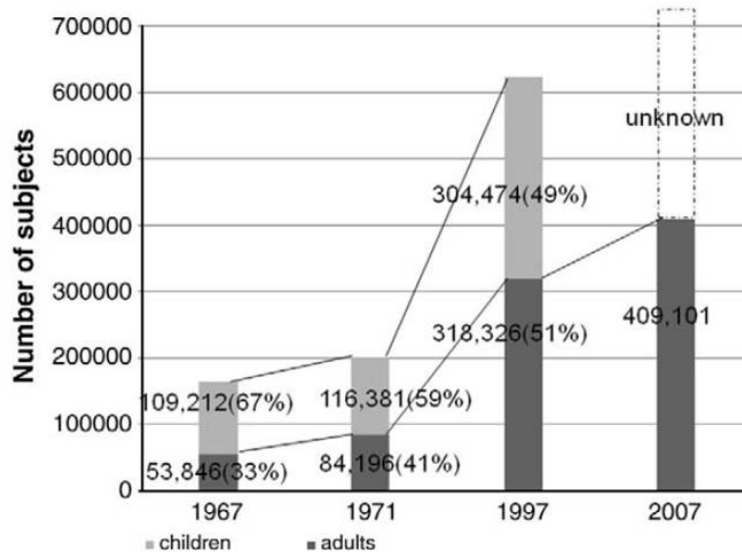
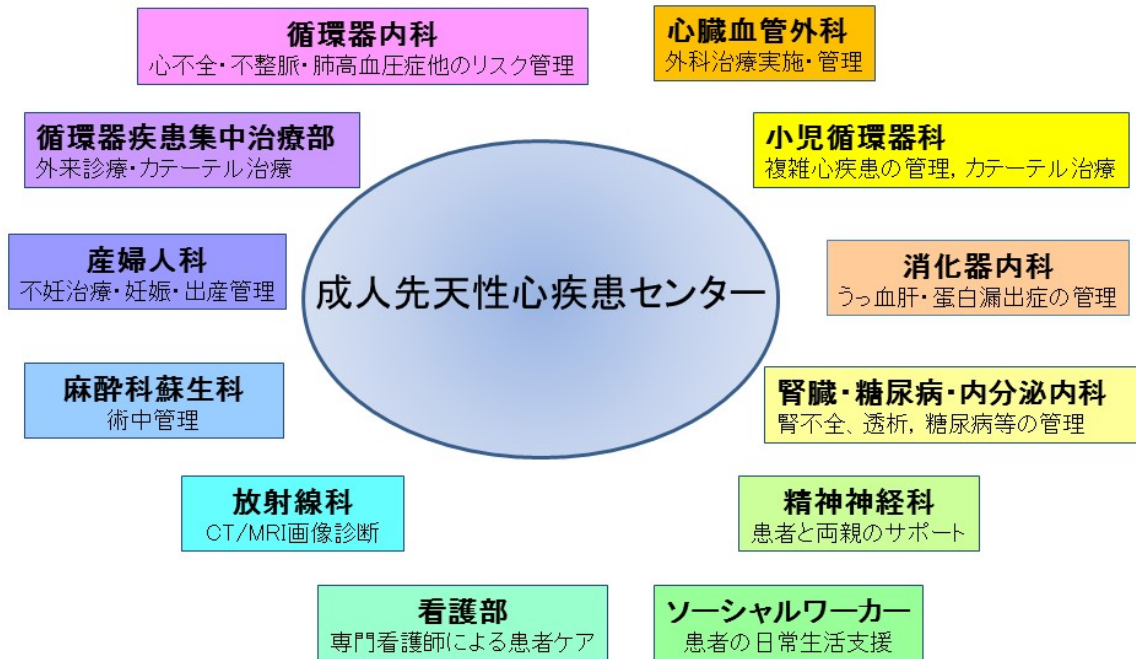
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医）

教授 伊藤 浩

（電話番号）086-235-7351



ACHDセンター組織図



我が国の先天性心疾患の50%以上は成人の患者である